

不可逆なオーバーラップ

この作品では、液体や光の不可逆な動きを重ね合わせることで予期せぬイメージと邂逅することを目的としている。私たちの暮らす世界は、人工的なシステムが制御することが多くなってきた。何をするにしても、元来の自然環境からは遠く離れ、テクノロジーが付き纏う。特にこのパンデミックの状況下では、私たちの呼気は人工のマスクによって制御され、体温は非接触で記録され、外界との接触には必ずと言えるほど電子機器が挟まるようになった。このような世界の状況の中では、自分が何かを見ているというより、情報を見せられている感覚があった。私たちは本当に見ているのだろうか。そのような思いから、修了制作として不可逆な現象が重なり合う瞬間を目撃するための空間を設えた。「見ること」を起点として、現象が重ね合わさり出現する感覚を、私たちの網膜の中で感じることで、機械と人間の間にあるコントロールすることができない自然を見つけることができるのではないだろうか。

2021年1月29日

諏訪 葵